

津山郷土博物館だより「つはく」

津博 TSUHAKU

2024.11 No.122

トピックス

- R6夏の学習プログラム
- 特別展「考古資料は語る!」
— 美作津山の古墳文化 —
- ミニ企画展「お正月」

館長随想

- 消えた鏡みつかる 小郷 利幸

研究ノート

- 津山藩士の稽古事 東 万里子



【いろいろな埴輪 令和6年度特別展展示風景】



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

夏の学習プログラムを開催しました。

今年は、人気の勾玉づくりに加え、新しく屏風づくりにチャレンジしました。屏風づくりでは、屏風について学んだ後、ミニ屏風に絵を描き、切り絵やスタンプなどで飾りました。参加者の皆さんは、熱心に取り組まれ、それぞれに工夫を凝らした勾玉や屏風を作り上げました。皆さんの感想文を紹介します。



むずかしかった。たのしかった。かわいいハートができた。
Fさん



はじめて勾玉をつかった。白い粉がたくさんでてけずれるところがおもしろかった。

Mさん

勾玉のことについていろいろと知れて、勉強になった。最後のみがくことが楽しかった。玉の種いろいろでも様々な形があると知った。 Sさん



書いたりはったりするのがたのしかったです。はるものがたくさんあっておもしろかったです。
Fさん



はじめてびょうぶをつくりました。あさがおときんぎょのはんこできれいにできてよかったです。
Oさん

令和6年度 津山郷土博物館特別展 考古資料は語る! -美作津山の古墳文化- 開催

●会 期：令和6年10月12日(土)～12月15日(日)

●記念講演会：令和6年11月16日(土)

会 場／津山圏域雇用労働センター

演 題／「美作津山の古墳文化の特質 -前期古墳の調査事例から-」

講 師／くらしき作陽大学音楽学部教授 澤田秀実氏

参加者／80人

●ギャラリートーク：令和6年10月12日(土)、10月14日(月)ほか



博物館キャラクター
「ファイアー」



展示風景



ギャラリートーク

考古資料は語る!
美作津山の古墳文化
考古資料から津山の古墳文化を紐解きます～

令和6年 10月12日(土)
～12月15日(日)

津山郷土博物館 3階展示室

開館時間：9:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日：10/15・21・28、11/5・11・18・25・12/12・19

入館料：一般300円(2400円)
高校・大学生：60歳以上200円(1600円)
※()内は30歳以上の特別料金

津山郷土博物館
Tsuyama City Museum
〒728-0822 岡山県津山市山下92番地
TEL.0868-22-4567

三井物産美術館 (協力)

ミニ企画展 「お正月」

令和7年1月4日～2月2日まで毎年恒例となっているお正月のミニ企画展を開催します。お正月らしい資料などを展示する予定です。

消えた鏡みつかるー田邑丸山2号墳の三角縁神獸鏡ー

たのむらまるやま

小郷 利幸

はじめに

市内下田邑所在の田邑丸山2号墳出土の三角縁神獸鏡について、当館だよりで書いたことがある。昭和35年頃盗掘で出土し、その後写真撮影されるものの、永らく所在不明であったが、令和5年11月の京都のオークションに60数年ぶりに現れた。その後、オークションも終わり、鏡はふたたびどこかへ。もし借りる事ができたら、当館秋の特別展の目玉になったはずだということである(註1)。その鏡がなんと、所在が判明し、さらに秋の特別展にお借りする事ができたのである。

三角縁神獸鏡について

三角縁神獸鏡は、波文帯三神二獸博山炉鏡で同志社女子大学特任教授の山田邦和氏が所有されており、島根大学准教授の岩本崇氏により精巧な写真が撮られ、資料紹介された(写真1、註2)。それによると、直径21・6cm、同範鏡が本鏡を含め8面あったので、1面新たに増えたことになる。その8面は、

- 岡山県田邑丸山2号墳(前方後方墳・40m)
- 広島県掛迫第6号墳(前方後円墳・47m)
- 兵庫県阿保親王塚古墳(現状円墳・36m)

○奈良県佐味田宝塚古墳(前方後円墳・111・5m)

○奈良県佐味田貝吹山古墳(現状円墳・30m)

○岐阜県円満寺山古墳(前方後円墳・60m)

○奈良県伝淡谷(詳細不明)

○大阪府万年山古墳(墳形規模不明)

からの出土で、万年山古墳が新たに追加された。

これら鏡は、岩本氏の研究で、文様形帯から3群に区分される。①円満寺山古墳、佐味田宝塚古墳、②伝淡谷、佐味田貝吹山古墳、③阿保親王塚古墳、田邑丸山2号墳、掛迫第6号墳、万年山古墳で、さらに①↓②↓③と変遷するとされ、本例は最後の③群でさらに範傷の多寡から阿保親王塚古墳と掛迫第6号墳の間に位置づけられる。

おわりに

鏡の所在がわかり、なおかつ展示できたことは、博物館関係者としてこのうえないことである。そもそも津山市において三角縁神獸鏡はこれが唯一であり、大変貴重な考古資料である。このように鏡の現物が発見されたことで、本鏡の位置づけを含め、今後のさらなる調査研究が期待される。

なお、展示にあたり便宜を図っていただ

いた山田邦和氏、写真を提供していただいた岩本崇氏には、この場を借りて御礼申し上げます。

註

(1)小郷利幸2024「消えた鏡あらわれ、ふたたびどこかへー田邑丸山2号墳の三角縁神獸鏡ー」『博物館だより No.119』津山郷土博物館

(2)岩本崇2024「岡山県津山市田邑丸山2号墳出土の三角縁神獸鏡」『古代文化第76巻第1号』公益財団古代学協会
(3)津山市土地開発公社・津山市教育委員会2000『田邑丸山古墳群・田邑丸山遺跡』



【写真1】三角縁三神二獸博山炉鏡(山田邦和氏所蔵)

津山藩士の稽古事

東 万里子

はじめに

先日、来年のテレビドラマで葛屋重三郎が取り上げられるというニュースを耳にしました。葛屋重三郎が多数の印刷物を出版し活躍した時代は、「宝暦・天明文化」期の後半にあたります。この時期、江戸では武家文化人・地方出身者・江戸っ子が一丸となって多彩な江戸文化を創出しました(『国史大辞典』)。津山藩では松平家五代藩主康哉の時代と重なります。

令和4年、当館では特別展「博学弁才無双・津山藩主松平康哉―学び続ける人々―」を開催しました。その際、津山藩における文化的活動を紹介するにあたって、修行や稽古事についても注目していました。が、紙幅の関係などから一部の表などは図録へ掲載できませんでした。そこで、本研究ノートでは、この時期における津山藩の学びの状況について「江戸日記」に記されている稽古事を中心に考えます。

藩外での稽古

康哉の死後30年以上経過してその事跡についてまとめた津山藩の儒者稲垣武十郎は、康哉の時代について「御藩文化之開け候義、先は此砌を最初と仕り候由故老共申候」と述べました。当時、津山藩の文化が開いたのは康哉が藩主の時期であったとの認識が津山藩内にあったのです。

稲垣武十郎は、康哉が藩主であったとき、儒者の大村庄助・飯室武仲・山下官弥などが新たに召し抱えられたことをうけて「文化之開け」と述べています。彼らは江戸・国元で定期的に講釈を行いました。すでによく知られているように康哉の時代には儒者だけではなく、絵師の鋤形蕙斎、軍学者の正木兵馬、また細工御用を行う鈴木常八なども召し抱えられました。

また、この時期の江戸日記を読むと、新たな人材を召し抱えるだけではなく、津山藩士が他藩などの師について様々な

修行を行っていることがわかります。宮原衛士は筆道を幕府の右筆を勤めたと思われる森伝右衛門について学び(天明3年6月21日)、広瀬台山・川上藤九郎・中田藤吉は、尾張藩の真野是翁から甲冑故実制作と着法などを学んだと考えられます(寛政5年10月12日、同6年7月10日)。秋山順介は三草藩の八木友右衛門から算術を学びました(安永9年3月28日)。師匠がはつきりしませんが、飯島伝茶は茶事修行(天明5年4月19日)、岡村八十八は、国学を学んでいます(寛政5年4月11日)。小澤四郎など四人は松宮左司馬門弟から軍学の講釈を聞いている様子があります(寛政3年6月2日)。

藩内での稽古

寛政3年5月、藩主の側近に仕える「近習」と、そのほか「表」向きの仕事を行う藩士などが自由に会い、文通することについて制限がかけられました。この制限以後、藩内で「近習」とされる藩士と

師弟関係にあり文通をする場合などについては許可申請が必要になりました。そのため、藩の日記に藩内における師弟関係や稽古・修行に関する記事が多く出てくるようになります。これらの記事から、武術以外のものについて寛政3年から寛政6年に康哉が死去するまでの時期をまとめたものが表1です。

まず、学ぶ人が多い科目として、「素読」があります。「素読」とは、書物の意味・内容を考えることなく、文字を音読すること、江戸時代の一般的な学習方法の一つでした。この時期、「学問」は、「儒学」を意味していました。表を見ると、儒学以外にも兵学や和学、算術などにも師弟関係があることがわかります。

次に目をひくのは「乱舞」です。『日本国語大辞典』によると、「乱舞」は、能の一節を謡い奏して舞うことや、能で速度の速い舞を意味するようです。野村奎左衛門は、学問や鼓も教えていました。このように、一人の人物が複数の科目を教えていることも興味深い点です。香山貫一郎は「素読・手跡」、広瀬雲太夫は「学問・素読・手跡・会読」、宇田川玄随は「手跡・蛮字解方」を教えていました。香山貫一郎は藩内で公的に講釈を行い、素読の世話を命じられていた人物です。広瀬雲太

夫は、藩主家族の手習いなどの相手を勤めていました。台山と号し、文人画家としても有名です。宇田川玄随は藩医で、津山に洋学をもたらした先駆者とされています。

藩主の好奇心

藩主康哉自身も様々な事柄を学んでいたと考えられます。儒者などの講釈をうけるのはもちろん、軍学や心学、西洋の情報も収集していたことが指摘されています。

安永3年(1774)には、近衛家の家来へ歌の稽古について手紙を送っており(『国元日記』)、仙台藩主伊達重村などと歌を唱和していたといわれています(福井久蔵著『近世和歌史』)。また、天明5年(1785)に幕府の絵師であった狩野栄川院へ入門しました。

おわりに

表1から藩内における師弟関係の全貌を考えることはできませんが、どのような科目で師弟関係があったのかなど、当時の様子を知ることができました。とくに「乱舞」や「謡」「鼓」を学ぶ藩士が多いことに驚きます。江戸幕府は、天明7年6月18日、「乱舞其外畢竟慰之筋二候得者

程よく相用い」(『江戸日記』)と通達しました。ここから、「乱舞」は禁止されていたわけではありませんが、ほどよく行うべきことであると釘をさされています。しかし津山藩では寛政3年5月26日に河内志津馬と野村奎左衛門を乱舞の師に命じ、野村は多くの弟子を持ちました。

また、江戸で国学を学んだ岡村八十八は藩内で和学を教えています。広瀬雲太夫が学問を教えている鈴木忠之進も、一方で素読師として教えるなど、学びが伝えられていく様子もわかりました。

藩士同士の関係については、「江戸日記」の寛政3年から6年という限られた状況しか分析できませんでしたが、今後は、国元の様子や康哉の死後も調査していきたいと考えています。



博物館キャラクター
つみよしのすけ
「津郷之介」



博物館キャラクター
お
「パレ太」



博物館キャラクター
「鯉若」

【表1】藩内での文通許可申請のうち、武芸以外のもの

科 目	教える側	教えられる側	日 記	日 付
素読	香山貫一郎	小島此母	江戸	寛政3年5月18日
		島田馬之助	江戸	寛政3年5月18日
		小沢四郎	江戸	寛政3年5月18日
		大沢堤	江戸	寛政3年5月18日
		根井新介	江戸	寛政3年5月20日
		柴崎金助	江戸	寛政3年5月20日
		喜多村万一	江戸	寛政3年5月20日
		飯島修省	江戸	寛政5年5月26日
	広瀬雲太夫	根井新助	江戸	寛政4年5月18日
		島田馬之助	江戸	寛政5年7月24日
		平井才次郎	江戸	寛政5年7月24日
	鈴木忠之進	宇田四郎兵衛倅三蔵	江戸	寛政3年6月10日
	種村登門	宇田四郎兵衛倅三蔵	江戸	寛政3年6月10日
乱舞	野村奎左衛門	野条金平	江戸	寛政3年5月16日
		柴崎金助	江戸	寛政3年5月16日
		三上山三郎	江戸	寛政3年5月16日
		藤井要人	江戸	寛政3年5月16日
		大場猪之吉	江戸	寛政3年5月16日
		太田忠五郎	江戸	寛政3年5月16日
		入江乙治郎	江戸	寛政3年5月16日
		中尾加兵衛	江戸	寛政3年5月16日
		入江多仲次男乙治郎	江戸	寛政3年6月6日
		江口幾弥	江戸	寛政3年9月28日
	河内志津馬	村山肇	江戸	寛政3年11月14日
手跡	石川左文太	宇田四郎兵衛倅三蔵	江戸	寛政3年6月10日
		菅慶弥	江戸	寛政3年6月10日
		芦沢源左衛門	江戸	寛政3年11月8日
		中島米介	江戸	寛政4年9月28日
		杉浦槌蔵	江戸	寛政4年9月28日
	広瀬雲太夫	小沢四郎	江戸	寛政4年3月晦日
		近藤善太郎	江戸	寛政6年7月25日
		山田喜代太郎	江戸	寛政6年7月25日
	宇多四郎兵衛	中村定蔵	江戸	寛政5年11月8日
	田淵右源太	徳山栄斎	江戸	寛政5年11月8日
	宇田川玄随	国保勇記倅綱太郎	江戸	寛政6年6月2日
	香山貫一郎	喜多村万一	江戸	寛政3年5月21日

太鼓	山根四郎右衛門	川上藤九郎倅与吉	江戸	寛政5年5月12日
		隅田熊五郎	江戸	寛政5年5月12日
	小島治三郎	野条金平	江戸	寛政6年2月20日
		山根四郎右衛門	江戸	寛政6年3月4日
兵学・軍学	正木兵馬	海老原定吉	江戸	寛政5年7月18日
		入江右膳	江戸	寛政5年12月6日
		児玉喜藤治	江戸	寛政5年12月10日
		小沢四郎	江戸	寛政6年1月18日
		島田馬之助	江戸	寛政6年6月25日
学問	香山貫一郎	近藤善太郎	江戸	寛政6年7月25日
		山田喜代太郎	江戸	寛政6年7月25日
	広瀬雲太夫	鈴木忠之進	江戸	寛政3年8月14日
会談	広瀬雲太夫	三上山三郎	江戸	寛政5年2月13日
		根井新助	江戸	寛政5年2月13日
		小沢四郎	江戸	寛政5年2月13日
和学	岡村八十八	根井新助	江戸	寛政4年5月18日
		小沢四郎	江戸	寛政5年7月1日
		太田定右衛門	江戸	寛政6年4月12日
諸礼式	根井新兵衛	児玉学治郎	江戸	寛政4年8月28日
		喜多村万市	江戸	寛政4年7月23日
		山田喜代太郎	江戸	寛政6年7月25日
鼓	野村奎左衛門	中尾嘉兵衛	江戸	寛政3年5月18日
		藤井嘉津馬	江戸	寛政6年5月8日
謡	中尾嘉兵衛	下山栄佐	江戸	寛政3年5月18日
		三浦順佐	江戸	寛政3年5月18日
絵	狩野如水	山田新三郎	江戸	寛政3年5月18日
笛	山田新三郎	大沢堤	江戸	寛政3年7月4日
算術	佐野儀八	中村亀也	江戸	寛政5年5月4日
蛭字解方	宇田川玄随	坂原武助	江戸	寛政6年1月13日
砲術	服部左治馬	保田藤兵衛	江戸	寛政6年7月10日



博物館だより「つはく」
No.122 令和6年11月30日



〔編集・発行〕 津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tv.tn.ne.jp

〔印刷〕 有限会社 弘文社

入館のご案内

〔開館時間〕 午前9:00～午後5:00

〔休館日〕 毎週月曜日・祝日の翌日

年末年始(12月29日～1月3日)・その他

〔入館料〕 一般…300円(30人以上の団体の場合240円)

高校・大学生…200円(30人以上の団体の場合160円)

65歳以上…200円(30人以上の団体の場合160円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です

